

# 知っておきたい 診療技術

## 慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術



耳鼻咽喉科部長  
福岡 久邦

### 【慢性副鼻腔炎とは】

副鼻腔とは顔や頭の骨の中に形成された空洞であり、ここに炎症が起こり膿汁が貯留することと慢性副鼻腔炎（いわゆる蓄膿症）といえます。症状は鼻閉や鼻汁が主ですが、頭痛や咳など、鼻とは無関係に思われる症状が生じることもあります。慢性副鼻腔炎の治療は薬物治療が基本で、抗生剤や去痰薬などを内服します。これらの内服治療を2、3カ月継続しても改善しない場合に手術治療の適応となります。例外的に真菌症（カビによる炎症）などの特殊な副鼻腔炎は保存的加療が無効とされる

だけではなく、命に関わるタイプの炎症もあるので早期の手術加療が望ましいとされています。

### 【慢性副鼻腔炎の手術】



ナビゲーションを用いた鼻副鼻腔手術

かつての手術は歯肉部を切開して、頬部の骨を削り炎症部位を粘膜ごと取り除く方法でした。しかし、この方法では不自然な治り方になり、問題を引き起こすことが明らかになってきました。また手術後は痛みが強く、数日間は顔が腫れることがしばしばあったため、辛い手術という印象をお持ちの方が多くいます。しかし現在は、内視鏡の技術が進歩し、頬部の骨を削らず、鼻内の操作だけで行う内視鏡下鼻・副鼻腔手術が主流となっています。

【当院での工夫とメリット】  
より安全に行うために、当院では最新のナビゲーション機器を使用します！

鼻副鼻腔は、複雑な形をしているだけではなく、眼や頭と隣接しています。このため昔から、頻度は低いものの耳鼻科領域でトラブルが多い手術とされています。このようなトラブルを避けるために当院では、ほぼ全例にナビゲーションという新しい手術器具を使用しています。車のナビゲーションと類似した機能により、副鼻腔内での手術器具の正確な位置をリアルタイムで知ることができます。危険部位を避けたり、確実に病変部位をとらえることで、より安全でかつ正確な手術が行えるようになっていきます。

**短期入院、術後の痛みを減らすため、当院では術後にガーゼを入れません！**

多くの施設では、鼻・副鼻腔手術後に出血予防のために鼻の中にガーゼを充填しています。一週間をめどにガーゼを抜きますが、ガーゼの留置・抜去に痛みが伴います。そのうえガーゼ抜去後に再び出血し、入院期間



術後に使用する綿（ソーブサン®）

に、ガーゼの代わりに特殊な綿（ソーブサン®）を使用する手術が行われています。この綿は止血効果に優れており、術後の出血はほとんどありません。さらに滲出液を吸収しゲル化するため、留置の痛みもほとんどなく、抜去の必要もありません。当院でも県内の他施設に先駆けて、本年度からこの特殊な綿を使用する手術を行っています。これにより入院期間を短くすることができるようになりました。

手術を受けられた患者さんの満足度は高く、今後当院のようにナビゲーションや特殊な綿を使用する手術が、多くの施設で行われていくことが期待されます。

副鼻腔炎でお困りの方は、特に手術加療を考えている方は、当院耳鼻咽喉科外来までご相談ください。